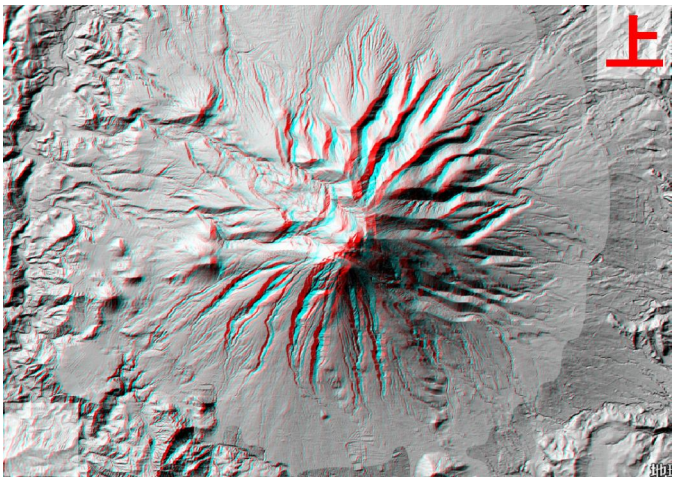
「日々の理科」（第 2062 号）　2020,-3,-2

「火山がつくる地形（13）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

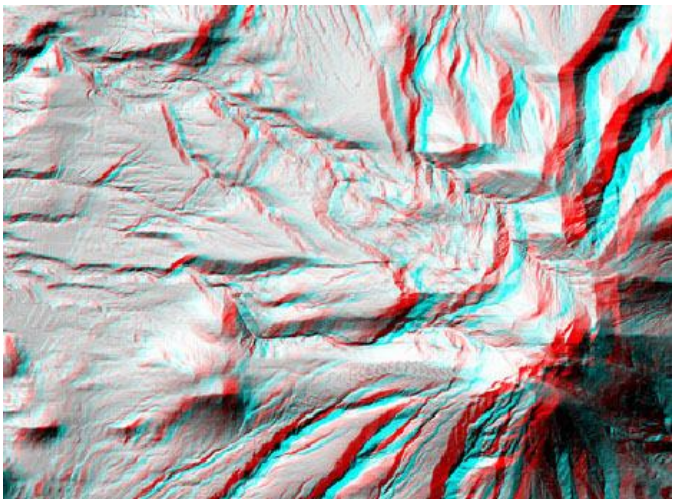
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka



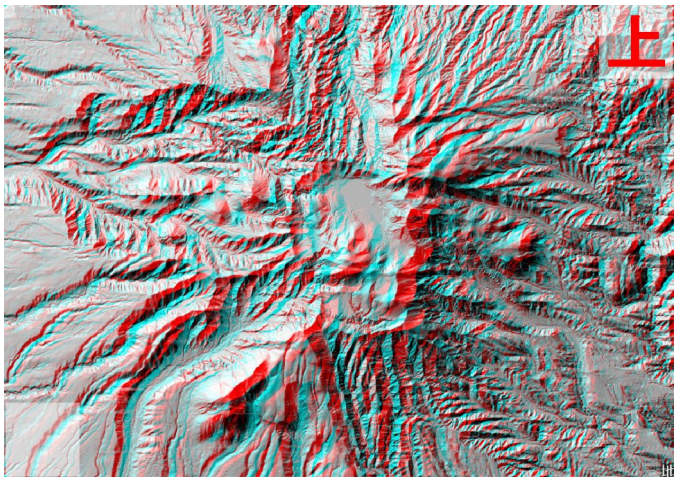
②岩木山（1,625m）

岩木山は青森県の最高峰である。岩木山も富士山などと同様「成層火山」だが、近年に大きな噴火はなく、江戸時代に何度か小規模な噴火の記録が残っている。従って利尻山同様、山体の浸食が進み、放射状の谷が四方に見られるのが特徴だ。



火山の最も大きな特徴である「山頂火口」は山体崩壊によって失われ、西北西側に大規模な「火口瀬」を形成している。現在の富士山は、まだ火口壁がしっかり残っているが、「大沢崩れ」と呼ばれる浸食谷が西側にあり、いずれは火口壁とつながって、火口瀬を形成するにちがいない。

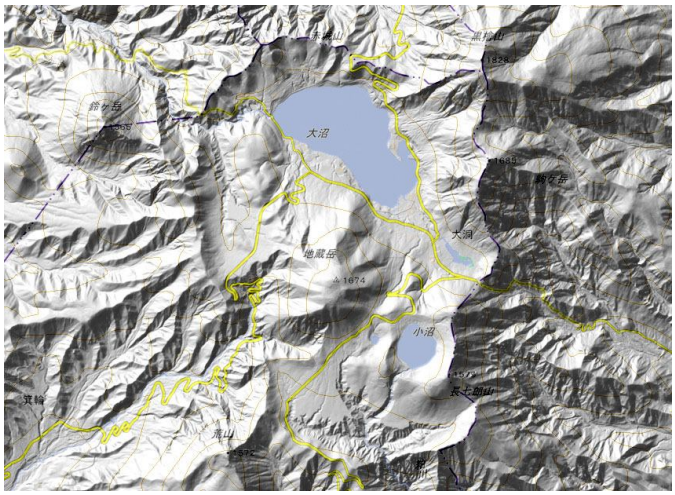
岩木山が火山であることを見極めるには、美しい円錐形の山容をしていること、ほぼすべての方向に同じように浸食谷が形成されていることなどが決め手だ。



③赤城山（1,828m）

群馬県の中央に位置する赤城山は、上越新幹線の車窓からもよく見える。上毛かるたでは「裾野は長し赤城山」とうたわれている。

写真は南麓から見た赤城山の遠望である。確かに裾野が長い。逆にどこからどこまでが火山で、どこが山頂なのかよくわからない。全体が「赤城山」なのだ。



この山は読図が難しい。火山としてはカルデラ湖を持つ「複式火山」であり、たくさんの峰を持つ。起伏陰影図と地形図を重ねると、カルデラ全体に自動車道がめぐらされている。これほど身近に大規模なカルデラを観察できる火山も珍しいだろう。